

自己評価の結果について

令和7年度

学校法人旭川カトリック学園 天使幼稚園

1. 本園の教育目標

キリスト教の精神と理念に基づいて、他者に対する思いやりと自己肯定の精神を育む。幼児の主体的な活動としての遊びを十分に確保し、遊びを通して周りの世界に興味をもち、探索し、思考する過程を大切にしたい教育を目指している。また、幼児期にふさわしい生活が展開されるように、園児と教師間の信頼関係に支えられた生活、興味や関心に基づいた直接的な体験が得られる生活、友達と十分にかかわって展開する生活がなされるように配慮した幼児教育を目指している。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・モンテッソーリ教育による自主選択活動を通して、人生の基本である自由・責任・集中力・自立心を養う。
- ・3・4・5歳縦割りクラスの中で、思いやり、尊敬、自他との調和を体得し、社会性を育てる。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目・目標	取り組み状況
1 保育の計画性 保育内容及び指導の在り方等を精査し、指導計画を策定し、教育内容の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none">・保育カリキュラムは、カトリックの教えを基に教育目標を立て、園児の発達を見通して作成している。・モンテッソーリ教育を取り入れ、園児が自ら考えて自主的に活動を展開していけるように環境を構成している。保育室に新しいお仕事を用意し、魅力的な活動をしっかり整え楽しんで活動に取り組めるように環境作りを行った。・3～5歳の異年齢縦割りクラスでお互いに尊重し、思いやりをもって仲良く過ごし、協調性や社会性が育っている。・水曜日のコーナー保育では、自ら興味を持ったコーナーを選択して、異年齢や他クラスとの交流を深めて活動している。・オーケストラ、人形劇を鑑賞する機会を作り、園児の感性を豊かにすることにつなげてきた。

<p>2 保育の在り方、幼児への対応 安全管理の徹底、幼児理解の向上、子育て支援その他の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園児の健康的な生活を守るため、園医と連絡をとり指導をうけている。感染症の園児がいた場合は、登降園システム『コードモン』で保護者にお知らせし、園内では換気や手洗いを徹底している。 ・ 園児が安定した気持ちで過ごせるよう一人ひとり愛情深く丁寧に関わるように努めている。 ・ 日々打ち合わせを行い、子どもの情報を共有している。ヒヤリハット報告書を作成、活用することで、子ども達の事故や怪我を防ぐとともに、教職員間で共有している。 ・ 運動会や参観日等の保護者参加の行事は、たくさんの保護者に子ども達の様子を実際に見ていただいた。今年度は3学期に希望者のみの参観日や個人懇談を設け、保護者に子ども達の様子を実際に見ていただき、様子を伝えてきた。 ・ 満3歳児クラスでは一人ひとりのペースに合わせ、丁寧に対応し基本的な生活習慣を身につけていけるように見守り援助している。また子育て支援の一環として親子登園日を設定し、園外保育や製作活動、クッキング、ふれあい遊びなど親子での関わりを持てる機会を作り、親子支援を行ってきた。
<p>3 保育者としての資質 保育専門家としての能力、姿勢、責任等資質向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園児の内面を理解し、個性を把握し、年齢及び発達段階に即した援助の仕方を工夫している。また園児と一緒に生活を創り出すことを楽しむ。 ・ 園児のことやクラスの出来事等で必要なことや問題点などを日々の打ち合わせで伝え、教職員間で共通理解を深める。また、教職員全員で一つのチームであることを自覚し、自分の役割に責任を持って行動する。 ・ カトリック幼稚園の教職員として、保育時間外でも保育者として自覚をもった言動を心がける。
<p>4 保護者への対応及び家庭との連携 園児に関わる情報の発信と受信、保護者のニーズの把握につとめ、要望や苦情に適切な対応を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者に日頃から送迎の際に子どもの様子を伝え、信頼関係を築くようにしている。バス送迎の保護者は電話で様子を伝えている。毎月の園だよりや保護者会等では子どもの様子を伝え、園の方針や考えをわかりやすいように伝えている。 ・ 毎月末にはシール帳集計時に、メッセージカードに担任からその月の子どもの様子を伝えている。 ・ 園への要望など保護者のニーズには丁寧に耳を傾け、園の教育方針や事情を理解していただきながら検討し、対応している。 ・ 年4回クラスだよりを発行し、写真などでクラスや園生活の様子を伝えている。 ・ ホームページのブログやインスタグラムで園生活の様子を保護者に伝えている。 ・ 登降園アプリの『コードモン』を利用し、保護者の連絡を受け、対応してきた。お弁当DAYの前日のお知らせや園だよりの追加事項等の保護者への連絡を行い周知してきた。また保護者会出欠の集計等アンケート機能で保護者の意向を確認してきた。

<p>5 地域社会との連携</p> <p>地域の自然や社会との関わり及び小学校との連携を図り、地域開放の努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 園児をとりまく地域の自然や社会で、豊かな生活経験ができるように近隣の伏古公園や新生公園等に行った。円山動物園、いちご狩り、りんご狩り、サンピアザ水族館に行く等、園外保育を楽しむことができた。また冬には美香保公園での雪遊び等も楽しむことができた。 ・ 東区幼保小連携推進協議会議に参加し、小学校の先生からお話を伺う機会をもっている。また、卒園する園児が小学校にスムーズに移行できるように、保護者の承諾を得た上で必要な児童の情報を小学校に伝え引継ぎ円滑な幼小連携に努めてきた。 ・ 近隣の小学校へ実際に行き、見学、製作活動や、高学年と学校グラウンドでドッジボールをするなど交流を深め、幼小連携を行うことができた。 ・ 年間を通して8回の園開放を行い、親子ふれあい遊びや、水遊び等を行い、地域の未就園児親子が遊ぶことができるように設定した。 ・ 未就園児クラス『エンジェルクラブ』では入園前に園の環境や先生に慣れ入園後安心して過ごせるように活動している。1歳3か月から参加できる『おひさまクラブ』では、低年齢からの子育て支援に努めている。満3歳児クラスに移行する前には親子分離の少しずつ行うなど、不安なく園生活を行えるように援助している。 ・ 東区警察署の方に来ていただき、安全な信号の渡り方等を実際に体験し交通安全について学んだ。
<p>6 研修と研究</p> <p>研修・研究を積極的に行い、専門性を高める努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ モンテッソーリ教師養成コースで勉強し、理論や実技を学んでいる。長期休みにはモンテッソーリ教育の園内研修を行っている。モンテッソーリ全国大会に参加し、モンテッソーリ教育の理解を深め、園内研修で職員に伝えている。 ・ 北海道カトリック幼稚園教職員研究大会、札幌市幼稚園教諭研修、特別支援研修、東区幼稚園研修、旭川カトリック学園研修、リーダー研修会などにもオンラインや対面で参加した。 ・ 年度初めに全職員で徳洲会病院の救急隊による救命救急の研修を受け、応急処置等を学び深めた。9月には全保護者に父母会マリータの会主催の講演会として赤十字社の救命救急講習を開催し、保護者にも応急処置を学べる場を設けることができた。 ・ 誤嚥事故防止や性被害防止にかかる全体研修会に参加し、内容を把握し、園内で職員に伝え、食事の際に誤嚥事故や不適切な保育に繋がらないように徹底している。
<p>7 情報公開</p> <p>保育の現状等や自己点検・評価の結果等を個人情報保護に留意しつつ、積極的に園便り等で情報公開する努力をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者は毎年自己評価を行い、一年を振り返り、子どものためにどのような教育が重要であるかを考え、質の良い保育を目指すよう努力している。 ・ 年度末のクラス代表の保護者で構成される役員会で自己評価結果を伝え、学校関係者評価をいただき、ホームページで公開する。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・ 園の教育目標や保育計画について、日々の保育を振り返り自己評価を行い、個々の課題を具体的にすることができ、今後の保育の向上のためのそれぞれの目標がもつことができた。
- ・ 教職員全員でチームとして、連携をしっかりと行い、細やかな配慮や丁寧な対応等が大切なことを再確認し、保育環境の充実に取り組んでいけるよう努力していく。今後も家庭との良い信頼関係を築いていけるよう普段のコミュニケーションを大切にしていき、園の方針を理解していただきながら、保護者のニーズにも対応していけるように努めていく。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防犯対策として、玄関電気施錠を行い外部からの侵入者を防いでいる。フェンスの劣化など修理や環境を再度見直し、より安全に園生活が行えるように整えていく。 ・ セコム防犯システムに加入し、外部からの侵入者を防ぎ、玄関や各部屋からの侵入の対策を行っている。今後防犯カメラの増設などを進めていき、安全対策を強化していく。 ・ 緊急時に備え、園内にAEDを設置している。 ・ 消防法を踏まえて施設設備の安全管理に努め、年 3 回の避難訓練(火事・地震)を行った。また、災害時のため、ポータブル蓄電器、全園児分のアルミブランケット・保存用ビスケット・飲料水を備蓄している。また防犯対策の備蓄などを再確認し、必要なものを再度購入するなど緊急時に備えている。 ・ 年度初めにバス訓練を行い、バスのクラクションと SOS ボタンの使い方などを園児に周知し、バスの置き去り防止に備え非常時に対応できるようにしている。また、バス乗車のマニュアルを全職員で把握し防止に努めている。 ・ 毎朝担任が登園打刻を確認し、出欠確認を行い、その後クラスの当番が出欠を園長に報告し、園長が出欠ボードと照らし合わせるなど園児の出欠の把握を徹底している。活動の中でも人数を点呼し、降園後も園児が退出しているかを確認するなど安全に努めている。 ・ 園児の命を守ることを最優先に考え、文部科学省・教育委員会からの指導、状況把握や情報収集などを基に危機管理マニュアルを作成し保護者に公開して、非常時の対応や感染拡大防止対策を実行していく。 ・ 登降園システム『コードモン』を導入しており、保護者に迅速に連絡が取れるようにしている。 また登降園を QR コードで打刻し、園児の出欠をしっかりと把握し、登降園の管理を行っている。 今後もコードモンのシステムを活用しながら、アンケートや資料室など保護者と連携をとり、迅速に対応していく。 また、コードモンのバス位置情報でバスの運行情報を伝え、保護者の待ち時間などの負担を軽減している。

<p>特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達に気になることがある園児や特別な支援を要する園児に対しては、保護者とよく話し合い理解を深め話し合い、東区幼児教育支援員、各関係機関と連携・協力しながら指導計画を立て、援助している。今後も教職員でも援助について具体的にケースワーク会議を行い、協力して体制を整えていく。また、発達と学びの連続性を確保するため小学校との連携を密接にしていく。 ・ 特別支援教育に関する研修を受け、日常的な保育の場面で活かせるように努めていく。
<p>園に対する保護者の満足度の把握</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事など保護者が園に来た際に、保育者が保護者に園の活動の様子を伝え、保護者からは家庭の様子を聞くなどコミュニケーションをとれるように努めている。 ・ 保護者の心配事や悩みには丁寧な話を聞き、迅速に対応することを心がけている。 ・ 保護者会では園の教育方針や行事などについてわかりやすく伝えていくように努めている。 ・ クラスの保護者代表の役員を集めた役員会では、行事の連絡や園の方針などを伝え、理解していただいている。役員会の内容等を議事録として『コドモン』の資料室に掲示することで、園の教育方針などを全園児の保護者に伝えるように努めてきた。就労のため参加できない保護者も増えてきていることから、今後も『コドモン』でのお知らせや紙面などを利用しながら情報提供していく。普段の子ども達の様子は、ホームページやインスタグラムなど発信しながら子どもの成長を伝えている。 ・ 保護者に「夏休み・冬休みの様子」を書いていただき、子どもの家庭での様子や日々の成長、保護者の思いを理解し、保育者が休み明けの子どもとの会話など関わりに活用している。また、年度末には卒園児・在園児にアンケートを実施していき、保護者の思いを理解し感謝して受け止め、今後のより良い園づくりにつなげていく。

6. 学校関係者の評価

各組・各学年のクラス代表の方に、本園の行った自己評価の内容についてご意見、ご感想をいただきました。

1. 保育の計画性

- ・ モンテッソーリの資格を持つ先生が4人いるそうで安心感がある。また、今年度は胡麻をする、靴を磨くなど新しいお仕事が増え、子どもたちも楽しそうに取り組んでいた。
- ・ カトリックの精神に基づき、日々のお祈りでは他者への思いやりが育てられる。また、クリスマスの本当の意味を待降節や聖劇で学ぶことができる。モンテッソーリ教育は、そのときの子どもに合ったやりたいお仕事に自主的に取り組むことができ、強制的ではないところが魅力である。手指の巧緻性も上がり良い。縦割りクラスは良くも悪くも様々なことを吸収する。年中、年長さんにやってもらったお世話を年下の子に自分もやりたいという精神が育つのは縦割りならではである。

2. 保育の在り方及び対応

- ・ 感染症が流行した時期は、コドモンでリアルタイムな感染症の動向が分かったことで安心できたので良かったです。

- ・保護者参加の行事も多く、子どもたちの普段の様子を知ることができて、先生たちと情報を共有する機会があつてありがたかったです。
- ・満3歳児クラスの保護者からは、親子登園の楽しさを聞いたり、その子に合わせた生活習慣のサポートをしてもらっていると聞くので、親子支援も親身になってくれる園だと感じます。
- ・園医と連絡を取り、指導を受けていただけるので安心できる。また、コドモンで感染症のお知らせがあるので注意喚起になって良い。
- ・子ども一人ひとりの性格に合わせて関わってくれるので、子どもたちも安心して過ごせている。日々の打ち合わせやヒヤリハット報告書を作成し、教職員同士で共有することで、事故やケガの防止に努めてくれている。
- ・運動会や参観等、人数制限なく観られるのはありがたい。3学期にもモンテッソーリの時間だけでしたが参観できて良い。
- ・保護者にとって子育ての支援になり、子どもが幼稚園生活に慣れることができるようになって良い。

3. 保育者としての資質

- ・園児の内面を理解し、個性や性格を把握し、年齢及び発達段階に即した援助の仕方を工夫している。
- ・園児のことやクラスの出来事等で必要なことや問題点などは報告や連絡を行っている。また、教職員全員で一つのチームであることを自覚し、自分の役割に責任を持って行動している。
- ・カトリック幼稚園の教職員として、保育時間外でも保育者として自覚を持った言動に心がけている。
- ・子ども一人ひとりをよく見てくれていると思います。
- ・園児のことだけではなく、園の運営についての問題点がないか検証してほしいと思います。

4. 保護者への対応

- ・送迎時に子どもの様子を伝えてくださるで、家庭での向き合い方にも大変有用でした。
- ・保護者の要望ひとつひとつに丁寧に向き合い返答してくれている印象があります。
- ・悪天候等で予定に変更がある場合も、コドモンで朝早く発信していただけるので、とても助かります。
- ・写真がたくさん入った園だよりなどを通して、園での生活を知る機会をできるだけ作ろうとしてくださり、子どもと共有することができました。
- ・先生方に会うと、園での子どもの様子や頑張っていることなどのエピソードを話して下さったりして、いつも子どものことをよく見て保育してくださっているのが伝わりました。

5. 地域社会との連携

- ・北9条、北光、中央小、年長児が校区内の小学生と交流する機会を作ってくれ小学校に興味、憧れが持てたように感じます。園外保育のりんご・いちご狩り、公園、園庭の草むしりの手伝い、すべてが思い出になっています。卒園しても振替休校の際は幼稚園に行けることもすごく嬉しく、子どもも喜んでいました。
- ・幼少連携は、年長児にとって未知の小学校生活を少し知ることのできる貴重な機会だと思うので、とてもありがたいです。卒園したお友達と再会できるのもとても喜んでいました。
- ・未就園児クラスは低年齢から参加できるので、親同士の交流や子どもの情緒にもプラスになると感じます。

6. 情報公開

- ・クラスだよりは子どもたちの写真がたくさん載っていて、園での様子や心の成長が感じられて毎回楽しみに読んでいます。
- ・自己評価結果は園での活動や園児の安全のために様々な対策や配慮がなされ、教職員間の連携が取られていることがよくわかる内容です。

- ・インスタへの投稿は、SNSに園児の顔を掲載することの可否を年度初めに確認を取ってから編集して投稿されており、適切に配慮されています。
- ・保育者は子どものために質の良い保育を目指すよう努力しており、一年を振り返って教育活動の自己評価を各保育者が行った。
- ・年度末のクラス代表の保護者構成される役員会で自己評価結果を伝え、学校関係者評価をホームページの園の概要欄内で年度ごとに公表している。
- ・毎月発行の園だよりと年4回のクラスだよりで、子どもたちの様子やモンテッソーリ教育の活動内容を積極的に保護者へ情報公開している。

7. 財務状況

大手監査法人である太陽ASG有限責任監査法人（東京）の監査を受け、適正に運営されていると認められている。